

宗教者9条の会・大分 にゆーす

●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

「私の非戦論」 間書き 釘宮義人（キリストの福音大分教会）

釘宮でございます。最初にどうして非戦論者・主義者になったかと言うことについてお話ししたいと思います。私の考

えでは非戦論者と非戦主義者は違うという感じをもっています。例えばクリスチャンとして有名な内村鑑三（1861～1930）先生は非戦論者としては確かなものを持っておられ、尊敬しているのですが、非戦主義者としては少し問題を持ち、危ういものがあつたように思います。花巻事件というものがあつて、斉藤宗次郎というひとが兵隊に行かないと決心したときに、内村さんは花巻まで出かけ、「非戦論を持つことと実際にそれを応用することとは違う、家族のことも考えて

慎重にやりたまえ」ときとし、兵役の拒否を止めてしまおうとすることがありました。私は今も内村先生を尊敬し無教会主義の立場をとっているのですが、その点だけは納得のいかない点です。

直接の体験として非戦論的な知恵を持ったのは、2・26事件（1936）



の時でした。事件の翌日に私の叔父が亡くなりました。叔父は実業家でしたが、無教会の伝道者でもあつたわけですから、東京では大分にも、青年将校が何かを起こし釘宮さんが殺されたということになり、大分でも緊張した空気が漂い、世界の

情勢などが話し合われたわけですから。それを聞きながら日本は危ない道を歩んでいるなど感じたわけですから。当時の人々は新しい日本をどうするかということが議論の中心にありまし

たから、私の場合も日本という国を愛するという非戦論であつたと思います。日本を勝たせたいとかというより「正義」の国にしたいという若い青年の意識だったように思います。正義の国になるためには他から攻撃されて滅びてもよいでないか、それで殺されて自分が天国に召されても良いでかという理想論をもつたわけです。

間もなく日中戦争（1937）が始まり、大分の連隊は南京攻略に参加しました。杭州に上陸して武漢などを制圧するわけです。その作戦に参加した一人の兵隊が途中で病気になる大分の陸軍病院に帰ってきました。母と一緒に見舞いに行つたときのことです。戸次出身の愉快で楽しいおっちゃん、戦場で見えたことを楽しげに話し始めました。「道ばたには沢山の死体がころがっており、中には女性が下半身裸にされ、強姦されたままの姿で放置され、下腹部には虫がうごめいている」などと話して「面白いんだよ」と高笑いをしました。中国で見たそのような状況を、痛むのでもなく悲しむのでもなく、蔑みの眼と卑猥な言葉をかけながら笑って通り過ぎて行く。強姦や蹂躞の話

剣を打ちかえて鋤とし、
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かい剣を上げず、
もはや戦うことを学ばない
旧約聖書イザヤ書2章

日本国憲法 第9条
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

論の中心にありまし

たから、私の場合も日本という国を愛する

にいる他の軍人達も「そうや、そうや面白かったなあ…おい」と含み笑いをしながら話しているわけです。異様なその場の会話を聞いて理屈ではなく「戦争というものは人間を悪くしダメにしてしまふ」と強く感じました。田舎の百姓のおっちゃんがかんなことをして、ヘラヘラ笑って自慢しているというのは衝撃的なものでしたので、私の戦争否定論に大きな影響を与えました。

私が影響を受けたのは内村先生と矢内原忠雄先生、それから政池仁まさひこさんです。政池さんの言い分は石橋湛山などと似ていまして農本のアウタルキーと言いますか、それに反対した人です。当時の日本の風潮は、農本的な自給自足が必要だ、自給のために必要な領土の拡張はやむをえないというものでした。当時、アウタルキーというのは評論家などにも説得力があったわけです。「出家とその弟子」を書いた倉田百三ですらそう言うことを言っていました。石橋湛山は「そう言う道ではなく、日本は工業力があるから、教育水準も高い。軍艦や軍事施設を造る金があるなら、それを様々な生産活動に当てれば領土の拡張をやらなくても食っていけるはずだ」「アジアの近隣諸国を自治的な国に仕上げ、仲良くやっていけばできないはずはない」と言ったそうです。戦争に負け、領土の返還を求められて、戦後の日本が始まるのですが、石橋の言ったような戦後の復旧が始まるわけです。

三井の関係の人が話していたことを思い起こしますが、日本が戦後の経済が復興に成功したのは、

戦争で焼き尽くされたためにどこでも工場を造るための土地があった。それから教育を受けた労働者が沢山いた。戦中戦後を通して国民的な統率が出ていて命令すればさっと動くと言うことがあったからだ指摘していました。日本人は何か起これば一辺に変わる。戦争中は「一億一心」戦後は「民主主義」。そう言うことがあるのかと思います。

もう一つ、ある人の外交問題で言っています。日本という国は明治維新以来、いつも世界第一の国と仲良くしそれについていく癖があると。かつては「日英同盟」「日独伊の三国同盟」、戦後はアメリカ。いつも大きな国にくっついてやっていますという「大国」べったりの姿勢があるといっています。それに加えて、昭和天皇が言った言葉だと言われますが「付和雷同するところがある」というのも言われてみればその通りです。

本題になりますが、平和憲法ですがあれは偽装憲法だと思っています。憲法の『前文』に「日本国民は、恒久の平和を念願し：崇高な理想を深く自覚するものであつて：諸国民の公正と信義に信頼して：」とありますが、こういうことは宗教的信念とか、神に仕えるというようなことが裏付けされていないと言えないことでもあります。特に前文の最後は「日本国民は、国家の名譽にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う」となっているのですから、そのことを裏付けするような背景をしつかり醸成しないと嘘

になってしまうわけです。

『9条』の戦争をしないというのも、「世界諸国の信頼」に基づいてと言うことになり、世界と言っても具体的には「アメリカの核の傘の下で」戦争をしないという解釈がなされることになり、危うさにつつまれていると言えます。世界で戦備を持つていない国が一つあります、中南米のコスタリカです。日本は戦備を持たないと言っても自衛隊がありますから偽物と言ふことになります。格好付けて戦備を持たない平和な国だと言って、世界を騙すだけでなく、日本人を騙し続けてきたということです。戦争中も「世界平和のため」と言つて「勝てば砂糖が入ってくるぞ」等と言つたのです。いつも正面の話と、腹の裏が違うというのが日本の問題だと思えます。

いつも騙され続けた国民ですが、戦争末期になると「連合艦隊はもうねえちゅうたな」などと囁かれ、広島に原爆が落とされたときも、数日後には「新型爆弾」ではなく「原子爆弾」が投下されたということを聞いていますから、全く何も知らなかったと言うことでも、統制された報道をそのまま信じ込むということでもなかったという側面があったのだと思います。

〈次号に続く・文責・日野詢城〉

「キリストの福音 大分教会」ホームページ
<http://www.d-brn.jp/wahaha/kyokai/annal.htm>

宗教者9条の会・大分「交流学習会」

二〇〇六年十月二十四日

発題 掛橋 泰定 (日蓮宗・妙樂寺住職)

日蓮宗としての対応

《仕舞置き》

明治元年

「太政官より法華宗諸本寺へ達」中、神仏混淆・諸神配祀の禁止と神像焼却指令を受けて明治2年1月身延山久遠寺より東京触頭三ヶ寺の名で

①天照皇大御神 八幡大御神など、すべて宗廟神祇に関する分は仕舞置くべきこと

②鎮守などは氏子へ、神像は社寺に渡すべきこと

③三十番神を記載または勧請する過去帳は仕舞置くべきこと

④御本尊中に神号が書き認められているものは仕舞置くべきこと

⑤経帷子を書いてほしい旨の願い出がある節は、神号を除いて書き認めること

⑥菊御紋付の法服は遠慮すべきこと

⑦各寺に勧請されてきた仏道神号を私的に改めはならないこと

と、神道国教化政策を容認した。

同じ頃、

宗門として《僧道一洗(僧弊一新)の規定を傳達》

①明治維新の政体を守ることに

②酒宴雑談を制止すること

③本山の学則法令を弁え、毎月六回法門研究に集まること

④勤行、道場莊嚴を怠らぬこと

⑤教導の職掌を守り、法に従って講演に勤めること

⑥僧俗の上下を糾明し、他への非難を慎むこと

⑦質素を旨とし、みだりに檀家などに寄進を依頼しないこと

⑧平常、僧服を脱がないこと

⑨尼僧、親族の婦人を寺内の滞留を固く停止すること

明治20年から30年頃は

国柱会の田中智学師 顕本法華宗の本多日生師など「国聖日蓮」を標榜する。

明治37年5月 大日本宗教家大会 神道・仏教・キリスト教の代表者らが諸宗教の協力と

国策支持を決議

宗祖650遠忌を控え、日蓮宗門下統合の象徴として大師号の宣下を奏上する。その請願

内容は

①日蓮聖人は、慈仁深厚の聖者であると共に、国家善導の先覚者である。

②日蓮聖人は、「熱誠ナル勤皇愛國ノ国士」である。

③日蓮聖人は、法華一実の正法を宣布すると同時に、

「神儒仏三道ノ融合」を期して立正と勤皇の大義を叫んだ。にもかかわらず、未だに追賞の恩典に浴していない。

④人心の向上を促し思想の健全を期すべき国状にある現在、思想界の先覚者であり、勤皇の国士である日蓮聖人に恩恵を施すことは、国民警醒の上で多大の効果がある。

大正11年10月13日 立正大師号が宣下

当時の奉讃歌に「畏きかなや天皇の 宣らしまえる大み号を 千代に八千代に君が代の 瑞徴としていざさらば 萬年までも 讃へてむ ああ吾が聖祖わが大師」

昭和初期の血盟団事件 5・15事件の井上日召

2・26事件北一輝 など天皇本尊論・皇道仏教説の信奉者輩出

大正12年関東大震災発生後、

【国民精神作興ニ関スル詔書】が煥発され

同年12月 宗門では、東京駅前前の工業倶楽部を会場に《大詔奉戴式》を挙げる。

その会場では、国体擁護の大本尊を掲げ 君が代を合唱し次の宣誓文朗読

①立正安国ノ祖猷ニ基キ忠孝義勇ノ美風ヲ顕彰スルコト

②忍難色読ノ先蹤ニ則リ質実剛健ノ士氣ヲ作興スルコト

③異体同心ノ慈訓ヲ体シ博愛共存ノ徳性ヲ涵養スルコトとし、詔書は大正の安国論とする理解があった。

開戦前後では

酒井日慎管長は、『久遠の王道』を発表し、法華経は皇統連綿と継承された世界無比の王道を証明・光揚するものという法国冥合論を主張し、皇国翼賛と聖旨奉答活動を展開し始めた。

昭和6年10月 宗祖650遠忌御正當に当たり「立正大師」号の勅額降賜を請願した。請願文の素案は田中智学師が起草した。「日蓮護国ノ精神願業文ニ在リテ顕然タリ（中略）勅額ヲ拜スルヲ得バ、皇恩佛徳渾然トシテ感応シ、法国冥合ノ大契（中略）尊皇護国ノ祖業輝キヲ増サンコト必セリ」
翌昭和7年3月
聖旨奉答の国禱会開催 管長願文の中に
「本地久遠実成三身即一天照皇如来、この国の中尊として・・・」

昭和7年
【遺文中の文言が不敬罪として削除を命じられる】
昭和11年頃

【曼荼羅不敬事件】日蓮宗では、三十番神と曼荼羅中に天照大神・八幡大菩薩を（国の神として）勧請することから、削除についての訴訟を神官から起こされる。

教団の対応は 法主国従 国主法従 法国冥合Ⅱ
王仏冥合に分かれ、権力闘争を繰り広げる。

《教学刷新》昭和15年9月（内部での権力闘争激化）皇道仏教行道会が立正大学学長を不敬罪で告

訴 翌年6月警視庁は

- ①久遠本仏に対する観念
 - ②天照大神と久遠本仏との関係
 - ③久遠本仏と歴史上の積尊との関係
 - ④曼荼羅に国神勧請の注意、などで圧力をかける。
- 《遺文編纂》祖書学の権威、立正大学浅井要麟教授の急逝によって改訂版は日の目を見ることなく終わる。
- 敗戦以降 立正平和運動を推進し現在に至る

参考資料「日蓮宗の近現代」現代宗教研究所編 宗報

交流学習会

11月の交流学習会は

別紙ご案内の講演会にかえます。
一人でも多くの方にご参加頂き、
講演をお聞き下さるようお勧め下さい。

12月はお休みと致します。

1月の交流学習会は『教えられなかった戦争』

（映像文化協会編）の上映会を致します。

明治維新以来、宗教界がどのようにして国家に取り込まれ、翼賛体制を取ることになったのかを中心に学んできましたが、次回は少し視点を変え、「侵略からの解放・革命」というサブタイトルの付いた影像による学習会と致します。ビデオを見た後に意見交換をしたいと思えますのでお楽しみにして下さい。

会場などの詳しい情報は『にゆーす5号』でお知らせします。

宗教者9条の会・大分 事務局
〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺
TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203
年会費 3,000円 郵便振替口座 01720-1-111731

編集後記

色づく間もなく、急ぎ足で散り始めています。
市内の街路樹は

新緑の頃発会した9条の会も半年の時を刻もうとしております。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

公開講座第二弾として沖繩在住の政治学者、ダグラス・ラミスさんをお招きします。

『聖なる戦争はありません』と堂々と云って欲しい」と、9・11以降、氏は宗教者に会うたびにお願いしているそうです。その願いはどのようなおもいがこめられているのでしょうか。

一人でも多くの人達と、ともに聞き確かめたいことのひとつです。公開講座でお会いしましょう。

世話人（◎代表者）

- 無着成恭 曹洞宗 泉福寺
- 酒迎天信 日本山 妙法寺
- ◎日野詢城 大谷派 見成寺
- 林 正道 大谷派 安養寺
- 西郡 均 本願寺派 誓岸寺
- 古谷 聡 大谷派 蓮照寺
- 佐々木淳二 大分メノナイトキリスト教会
- 掛橋泰定 日蓮宗 妙栄寺
- 藤田宏紀 パプテスト連盟大分教会
- 大在 紀 本願寺派 長光寺